

「技術開発」についての雑感



取締役副社長 塚田 欽一郎

産業・社会・生活の変化、高度情報社会への移行、国際自由化の流れ、エネルギー間の競争と選択といった社会基調の変革の中で、電力経営の抱える課題や問題は広くその拡がりを見せている。今後の日本経済も今まで歩んで来たような過去の姿のまま拡大して行く画一的量的拡大の方向とは異質のものとならざるを得ない。そのような基本認識の上に立って、内外のエネルギー情勢、総エネルギーの需要、電力需給構造等の将来見通しを踏まえながら、電力経営の課題とその対応の方向を考える大きな転換期に逢着していることは確実である。

経済、社会、生活様式の変化は、電力需要の動向や電力供給設備形成のあり方等に大きな影響を与えるであろうし、高度情報化社会への移行は高品質の電気の供給の要請を高め、また高度な通信システムを持つ電気事業はお客様サービスシステムの構築をめざすことも必要になろう。更にエネルギーの生産、利用技術の進歩により各エネルギー産業は、それぞれの特性を生かしながら競り合っていくことになるだろう。

こういった変革への節目にあたり、昨年6月「21世紀に向けての長期展望」を策定、当社の21世紀に向けての課せられた使命の認識と使命達成のための重要な経営課題をチャレンジテーマとして設定した次第である。

以上縷々述べたが、社会基調の大きな変革の流れの中であって、多くの課題を抱える電気事業が今後さらに発展を続けて行くためには、技術開発が如何に大きな意義を持ち、技術開発に依存する面が如何に多いかを強調したかったからである。発想の転換、今後の技術開発の戦略が是非必要である。ここで問題として取り上げたいのは中部電力の技術開発集団をどのように性格づけ、位置づ

けて、どのようなテーマを最重点とすべきかということである。

供給サイドにおいては、低成長、エネルギー消費寡少による既設設備の更新がウエイトを占める時代を迎え、供給信頼度向上は云うまでもなく、設備の延命、施設の診断、リプレースの技術開発が中心テーマではなかろうか。

また需要サイドにおいてはお客様のニーズを把握し発掘して、負荷率の向上を図って行くことが必要であり、電力の利用技術の開発が中心課題であろう。需要があって供給が行われるのではなく、優れた利用技術の開発によって需要を作り出して貰いたいものである。

中部電力の技術開発集団の性格は、医学的に言えば、臨床医学の分野に属し、何科を選ぶかによってその特色が出てくる。いずれにしても技術集団の性格について、はっきりした認識を持ち、その位置づけをし、研究の特化を図る必要があると思う。そうすることにより研究テーマの選別、外部研究機関との研究テーマの分担、共同研究のあり方に一つの路線が生まれ、効率的な研究が推し進められるのではなかろうか。個性と自主性を持った集団として構築され、経営課題対応の重要な一翼を担って貰いたいと思う。現在そのような方向で体制強化が図られようとしているが、構成員、マネジメントの面で解決すべき問題を多く抱えていることも確かである。

窓外に少人数で周到な計画、準備のもと実に効率的にビルトアップされていくビル建設工事を眺めながら、思いつくまま、当社の技術開発集団のあり方を雑感として述べた次第である。誤謬、認識不足も多々あるに違いない。技術開発を分担される皆さん共々深く掘り下げて見たいと思っている。

表紙写真説明

浜岡3号機配置設計用原子炉格納容器のプラスチックモデル
(背景は据付中の浜岡3号機原子炉格納容器)
本文 12頁